水沢姥口 小

約九〇〇年の歴史がある鋳物産地の岩手県水沢。平泉の文化を支えてきた鋳造の技術が引き継がれ、現代に活きる日用品を作り続けています。この鉄瓶は急激な錆の発生を防ぐため、鋳造後の「釜焼き」で酸化被膜を施し、外側は更に焼付漆による被膜を施してあります。

◎最初にお使いになる前に

鉄瓶の中をゆすぎ、お湯を沸かしてください。二、三回繰り返しお湯を沸かし、お湯が澄んでから飲用してください。

◎ご使用に際して

・ご使用いただける熱源は、直火、電熱器、ハロゲンです。電磁調理器(IH)はご使用になれません。

・鉄瓶の満水容量は、おおよそ一リットルです。お湯を沸かすときには本体の七分目(〇・七リットル)以上、水を入れないでください。沸騰した際にお湯が噴きこぼれ、火傷やけがにつながる恐れがあります。

・火加減が強すぎると、満水でなくとも沸騰時に噴きこぼれることがあります。噴きこぼれによる火の立ち消えは、火災などの事故につながる恐れがありますのでご注意ください。

・加熱すると、全体が非常に熱くなります。取り扱う際には、必ず乾いた布巾などを当て、素手では触れないでください。

・お湯を注ぐときは蓋がずれ落ちないように、乾いた布巾などで蓋を押さえてください。

・沸かしたお湯はその都度必ず出し切ってください。お湯を出し切ったらすぐに蓋を外し、余熱で乾かします。水気が残る場合は、弱火にかけて水分を飛ばします。蒸発し始めたらすぐに火を止めてください。水気が残ったままの状態は、錆の原因となります。水質により酸化被膜が青色に変色する場合がありますが、ご使用には問題ありません。

・鉄瓶の空焚きは、鉄肌の傷みや錆の原因となりますのでご注意ください。万一、空焚きし過ぎてしまった場合でも、熱い鉄瓶を水に浸けないでください。急冷により割れやヒビが生じる可能性がありますので、自然にゆっくり冷ましてください。

・底面はざらついていますので、テーブルや調理台などを傷つけないよう、鍋敷きなどの上に置いてください。

・落下や強い衝撃は、鉄瓶が割れる原因になりますのでご注意ください。

・外側に汚れが付着した場合は、布巾などで拭き取ってください。

・長期間使用しない場合は、本体が完全に乾いた状態で布や紙に包み、湿気の少ないところで保管してください。湿気が多い場所に置いておくと錆が発生する恐れがあります。

◎湯垢（ゆあか）について

・繰り返しお湯を沸かすことで、水に含まれるカルシウムなどのミネラル成分が内側に白く定着してきます。これは湯垢と呼ばれ、鉄瓶の内側の過度な錆の発生を抑える働きをしてくれます。

・使い始めの鉄瓶の内側は、過度な錆を防ぐ膜で覆われています。長期間の使用により、この被膜が劣化してくる前に、湯垢を付けることが大切です。
・早く湯垢を付けるためには、使い始めの一ヶ月ほどは特に、毎日使うことが肝心です。弱火から中火以下の火力で時間をかけて沸かすと効果的です。また、浄水器でろ過した水よりも、カルシウム含有率の高いミネラルウォーターや井戸水を使用すると湯垢の付着が早まります。
・湯垢は錆を防ぐ大事な成分です。鉄瓶の内側は、普段のお手入れでは決してこすったり、中性洗剤で洗ったりしないでください。

◎錆のお手入れについて
鉄瓶は、扱い方に関わらず自然に錆が出てきます。多少の錆は、ご使用には問題ありません。ただし、沸かしたお湯が赤くなってしまう場合は以下の手順で対処します。
①盛り上がるほどひどい錆が発生してしまった場合は、柔らかいブラシや束子で錆を落とします（内側をこするのは錆のお手入れの時だけです）。
②錆を洗い流した後、七分目まで水を入れ、湯呑み一杯分程度の煎茶葉を加えます。
③そのまま沸騰させて茶葉を煮出します。沸騰したら、ごく弱火に三〇分ほどかけます。
④火を止めてそのまま一〇時間ほどおくと、お茶のタンニンと鉄分の反応により錆の部分が黒く変化し、被膜が作られます。
⑤鉄瓶の中を洗い流し、七分目まで水を入れ沸騰させます。
⑥お湯が多少濁っていても問題はありません。気になる場合は②~⑤までの手順を二、三度繰り返してください。お茶の匂いが染み付いていたとしても、使用するうちに解消されます。

◎外側のお手入れについて
鉄瓶の表面のお手入れは、煎茶が効果的です。鉄瓶が余熱で熱いうちに、煎茶に浸し軽くしぼった布で磨きます。お手入れを丁寧に続けることで独特の光沢が生まれ、うつくしい経年変化をお楽しみいただけます。

◎修理について
ご自身では対処できない錆や、鉉の外れ、その他、状態に応じた修理を承っております。お気軽にご相談ください。

製品には万全を期しておりますが、万一不具合などお気づきの点がございましたら、ご購入店、または左記までご連絡ください。

素材／鋳鉄・鍛鉄・漆　一　産地／岩手県水沢　一　製造／及富 ㈱　一　制作／東屋 ▦

東屋
〒一五〇ー〇〇三三
東京都渋谷区猿楽町五ー十四　#二〇六
〇三ー六四三三ー七九八二
contact@azmaya.co.jp
www.azmaya.co.jp